

# 子どもとともに学ぶ 人権教育

いのち・愛・人権

小学校6年生の子どもとの会話から、人権・同和教育のすばらしさを改めて感じたお母さんの手紙をご紹介します。

## 「水平」という言葉の意味

ある日のこと。

「お母さん、水平っていう言葉の意味を知っている？」と聞いてきました。私が、「水平社宣言の『水平』のこと？」と聞き返すと、「うん、そう。お母さん、コップの水は置く場所や置き方によっていろいろ変わって見えるけど、もともと水面は平た

いだって。だから、人と人も平ら、平等だということが、水平という言葉の意味なんだって」

「そうだな。本当にあなたが言うとおりの平等が大事だと思う。そんな大事なことが分からずにおるじゃ、差別がなくなるのじゃないだろうか？」

「お母さん、私には、大事なことが何で分かってもらえんかは、よく分からんけど、大事なことを忘れないように教え合えばええだが」

「そうだなあ」

「あんまりにも、大人がいろんなことを気にするけれど」

「子どもは気にせんか？」  
「私やあも気になるで。こんなこと言ったら友だちは何て思うだろう？とか。でも、本当に友だちが好きなら、いけんことはいけんって言おうって、話し合ったが。それが、相手の立場に立って考えるということだから」

## 躊躇する理由は

子どもとの会話で、私はもう一度自分自身を見つめ直しました。

人間としてあるべき姿を示しているわが子たちのこの学びを新鮮に感じつつ、躊躇している私。さまざまな場面でおかしいなと感じても、そのことを指摘できずにいる私。なぜ、私は躊躇してしまうのか？

それは、「こんなことを言ったら、周りの人にどう思われるだろう」と、世間体を気にしている私がいるから。周りの人と歩調を合わせる方がいいことだと、ごまかしながら生きていくこうとする私がいるから。

差別はおかしい、あなたの考えは間違っている、一緒に考えていきませんか」と、言える私になりたい。子どもたちの学びに教えられながら、なぜ踏み出せないのだろうか。  
きつと、差別はおかしいと誰かが言う社会なのに、差別があっても自分のことじゃないと、見て見ぬ振りをしてきた社会の中で生きてくるうちに、そう生きることに生きやすくと学んでしまったから。差別が私の中にも、空気を吸うがごとく注入され根づいてしまったから。

## 子どもたちの学習から学ぶ

もう一度立ち帰りたい。差別をなくしたいと思った、あの思いに。差別は差別する側が変わることではなくすことができる。何度も聞いているこの言葉を、あらためて自分のこととして受けとめたいと思いました。  
わが子たちよ、ありがとう。あなたたちの学習で、私もまた、自分の生き方を見つめ直すことができましたのです。

### ■問い合わせ先

(鳥取市人権情報センター)  
(0857) 24-3125

## ご案内 部落解放月間 (7/10~8/9) の市内各行事

### 人権問題啓発映画会

とき 8月2日(火)、9日(火) 午後7時30分

ところ 気高町隣保館

問い合わせ先 気高町隣保館 ☎(0857) 82-3363

### 部落解放鳥取市研究集会

とき 8月3日(水) 午前9時30分

ところ 県民文化会館 ほか

問い合わせ先 市役所本庁舎人権推進課 ☎(0857) 20-3144

### 同和問題講演会

とき 8月8日(月) 午後6時30分

ところ プラザ佐治記念ホール

問い合わせ先 佐治町総合支所 ☎(0858) 88-0213

### 啓発パネル展

とき 8月9日(火) まで

ところ 気高町隣保館

問い合わせ先 気高町隣保館 ☎(0857) 82-3363

### 青谷町みんなで学ぶ人権・同和教育講座

とき 8月11日(木) 午後3時30分

ところ 青谷町総合支所

問い合わせ先 青谷町総合支所 ☎(0857) 85-0014

### 公民館同和教育講座

とき 8月23日(火) 午後7時30分

ところ 河原町中央公民館

問い合わせ先 河原町中央公民館 ☎(0858) 76-3123